

平成 31 年度 (2019 年度) 県立大子清流高等学校自己評価表

目指す学校像	人間尊重の精神を基盤に，社会の変化に主体的に対応できる，個性的で創造性や国際性に富む，心豊かな人間を育成する。 ○一人ひとりの生徒を大切にし，対話を基本としたきめ細かな指導を行う学校 ○自分の将来を深く考え，自分で進路実現ができる能力を育む学校 ○地域と共生し，地域に根ざした教育を行う学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
大子一高・大子二高の歴史と伝統を引き継いで誕生した本校は，昨年度第 13 回目の卒業生を送り出し，開校以来 13 年連続で国公立大学合格者を輩出するとともに，3 人の公務員合格者をはじめ，就職希望者の全員内定など，良好な進路実績を残すことができた。進路希望を実現できる確かな学力の育成に向け，平成 29 年度から継続して行っている「主体的，対話的で深い学び」に向けた授業改善の取り組みをさらに進め，生徒の学習意欲の向上に繋げる。 また，部活動においては，インターハイ出場者を輩出するなどしている。が，生徒数の減少の中，更なる部活動，特別活動の活性化が求められる。 開かれた学校づくりに向けた，ホームページの充実，リーフレットの配布等を行っているが，地域，県内，県境を挟んでの県外への中学生・保護者への浸透には不十分さが感じられる。継続的な「清流だより」の配付，中学校教員，塾担当者等への積極的な説明，情報発信に努める必要がある。急激な中学校卒業生徒数減少の中，本年度も昨年同様に地元大子町出身者の過半数の志願を得られなかった。継続的な「清流だより」の配付，中学校教員，塾担当者等への積極的な説明，情報発信に努め，更に本校の良さを発信し理解してもらい，地元大子町及び近隣市町村からの志願者増を目指す。 「水戸まで行かなくても，進路希望をかなえ	確かな学力を育む，学習指導の推進	● 生徒の主体的な学習態度の育成 ・「主体的，対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」、「学習意欲の喚起」に向けた授業改善と研修の推進を図る。 ・各教科・科目等の特性に応じた言語活動の充実と教科横断的なカリキュラムマネジメントを推進する。 ・課外授業への参加促進と，家庭学習の習慣化（Classi の活用等）を図る。 ● 学習指導の充実 ・基礎学力を充実させ，夢を実現できる確かな学力の育成を図る。 ・地元において国公立大学等に進学できる授業，課外授業等を推進する。 ・農林科学科・総合学科の特性に対応した組織的，系統的な指導体制を構築し，魅力ある授業や実習の充実を図る。 ・指導の充実や教育の保証に結びつく観点別学習状況評価実施の推進を図る。	B
	豊かな心，健やかな体を育む特別活動，生徒指導の推進	● 特別活動の充実 ・探究活動を取り入れた「道徳」の実施や，生徒会活動，各部・各種委員会活動の活性化をととし，「協働する力」や「健やかな体」，「命の大切さ」や「豊かな心」を育む。 ・勤労体験，スポーツ・ボランティア活動などを推進して「他人を思いやる心」を育む。 ● 生徒指導の充実 ・生徒の基本的な生活習慣の確立と規範意識の高揚を図る。 ・生徒面談等を通じた生徒理解の推進と，心に課題を抱えた生徒に対する生徒相談，カウンセリングの充実を図る。	B
	時代の変化，グローバル社会に対応できる教育，進路指導の推進	● 進路指導の充実 ・生徒の各種進路希望に対応できる，組織的，体系的なキャリア教育の充実を図る。 ・地元において国公立大学等に進学できる進路指導体制の充実を図る。 ・企業訪問・大学見学会・講演会等をとおして，望ましい職業・勤労観の育成を図る。 ● 国際教育等の充実 ・タイ王国カセサート大学付属校との国際交流事業等の充実と，事業を活用した異文化・自国文化理解教育の推進 ・英語検定試験や高校生英語実践力向上事業等への取り組みの推進	A

別紙様式2（高）

られる」を合い言葉にした学校づくりに向け、①学習指導の推進、②特別活動・生徒指導の推進、③進路指導の推進、④地域との連携・情報発信の推進、⑤特別支援教育の充実の五本柱を掲げ、職員で知恵を出し合い、1つの目標に向けて最善を尽くす体制をつくり、「生徒のために」みんなで取り組んでいく学校文化の構築を目指していく。		保護者・地域との連携及び本校教育活動についての情報発信の推進	● 保護者・地域・中学校等との連携の充実 ・保護者や地域の声の把握に努めるとともに、大子町、地域関係団体等との連携を推進し、地域の教育力の活用を図る（学校設定科目「未来探究」等）。 ・夏の学校説明会の充実を図るとともに、他の時期の学校説明会・講座等の新設を図る。 ● 教育活動等の情報発信の推進 ・「清流だより」「学校説明会」「ホームページ」等の充実を図り、本校の魅力ある教育活動を発信する（「清流だより」の町内中学生への配付等）。 ・継続的な中学校・塾訪問等とおして、本校の魅力ある教育活動の情報発信を図り、地域に開かれた学校づくりを進める。	A	
		特別支援教育の充実	・生徒理解と教育的ニーズに応じた個別支援の充実を図る。 ・インクルーシブ教育の実現に向けた、ユニバーサルデザイン化と関係専門機関との連携協働を推進する。	B	
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
国語	基礎学力の充実・向上をはかる。	言語事項の到達度についてチェックし、定着を図るために適宜小テストを行う。	B	B	・授業ごとの学習目標の設定と生徒による振り返りを徹底する。 ・進路を意識した授業づくりをする。
		生徒の授業に対する関心・意欲を高めるために、補助教材を適宜活用する。	A		
	伝え合う力を育てる。	グループワークや発表等を通して他者に考えを伝えと共に他者の考えを傾聴する時間を設ける。	B		
	進路指導の充実をはかる。	志望理由書など文章の添削指導や面接指導を通して、生徒の志望進路実現に努める。	A		
		資格として漢字検定の取得を勧め、受験者を支援し合格者の増加に努める。	A		
地歴・公民	基礎学力の向上を図る。	学科・系列・クラス等の実態に合わせた授業を行う。	A	B	・学年と連携して適切な課外を設定する。 ・他教科と連携して教科横断的な授業を展開する。
		生徒の進路に応じた課外授業の充実を努める。	B		
	学習指導法の研究・実践に努める。	副教材・視聴覚教材・実物教材を効果的に利用した授業を展開する。	A		
		作業的・体験的な学習や言語活動を取り入れることで、「主体的、対話的で深い学び」に向けた授業改善に取り組む。	A		
		他教科との情報交換や情報共有を活性化させ、教科横断的な授業を展開する。	B		
数学	基礎力の向上に努める。	習熟度別学習を展開し、生徒の能力に応じた授業を行う。	A	A	・ICT教材を活用し、数学的な見方考え方を育成するような授業を行う。 ・数学検定の受験者及び合格者の増加を目指す。
		定期テストに向けた補習を行い、基礎学力の定着を図る。	A		
		定期的に課題を課して、家庭学習を通じての振り返り学習を促す指導を行う。	A		
	進路指導の充実	進路に応じた課外を継続して実施する。	A		
		大学・短大・専門学校・公務員などの試験問題を内容分析し、出題傾向等を研究する。	A		
		数学検定とそれに向けた課外を実施し、合格率を向上させる。	B		
	主体的・対話的で深い学びを実現させる教科指導の工夫	副教材の利用、多様な問題に取り組む。	A		
		校外で行われる研修などを通し、多彩な授業の教材研究に取り組む。	A		
		自ら考え他者と協力して学ぶ姿勢を身につけさせるため、ICT機器の活用やアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる授業展開の工夫	B		
理科	基礎学力を定着させる。	授業後に振り返りや小テストを行うことで、基礎学力の定着を図りつつ、学習内容の定着を把握し、必要に応じて補習を実施するなど生きて働く「知識・技能」の習得を目指す。	A	A	・主体的、対話的で深い学びにつながる授業改善を推進する。 ・振り返りを行うことで生徒
		教員間の授業公開・参観、各種研究会への参加を通して、指導力の研鑽を積む。	A		
	生徒の学習意欲を喚起する授業を行	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニング型授業についての研修や相	B		

別紙様式 2 (高)

	う。	互の授業参観等を行い、「わかる授業」の実践を目指す。		A	が何を学んだのかがわかるようにする。
		日常生活や社会との関連を授業で取り扱うことで、社会の変化に対応できる「思考力・判断力・表現力」を身につけさせる。	A		
	自主学習の習慣化など、主体的に学ぶ態度を育成する。	副教材や配付資料などを精選することや Classi による予習・復習の配信など、適切な課題を課すことで、自主学習を促進する。	B		
		実験・観察を通して、自然現象への興味・関心を高め、基本的な「実験・観察の技能」を習得させる。	A		
	さまざまな希望進路に応じた指導を行い確かな学力の育成を図る。	I C T 機器や動画等を活用した授業方法を研究し、生徒の授業理解の手助けとする。	A		
		大学進学希望者への平常時や長期休業中の課外を通して、さらに高い学力を身に付けさせる。	B		
保健体育	生徒の実態を把握した学習指導計画の充実を図る。	地域や学校の実態に即した学習内容および系統的な指導計画の工夫をする。	A	A	・運動に対して自発的に活動できる機会を設け、技能の習得や体を動かすことの楽しさを味わえるように授業を工夫する。
		運動の喜びや楽しみを理解させ、内容の習熟に意欲的に取り組む指導計画の工夫をする。	A		
	健康で豊かなスポーツライフを育む評価の工夫を図る。	評価基準と評価方法の工夫と具現化する。	B		
	豊かなスポーツライフの基礎を培う体育学習の工夫を図る。	集団行動の指導を重視する。	A		
		自ら体力を高め、自発的に運動の学び方や技能の習得に取り組むような学習の工夫をする。	A		
	自らの健康を適切に管理し、改善していく実践力を培うための保健学習の充実を図る。	課題学習や調べ学習による自主的・自発的学習の促進をする。 多様な体験的、実践的学習の活用による学習の工夫をする。	A B		
芸術	生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てる。	芸術の多様な領域・分野を扱いながら、生徒が主体的に取り組むことができる学習活動を計画・実施する。	A	B	・生徒が主体的に取り組むことができる学習活動を工夫する。
	感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす。	芸術に対するとらえ方や考え方を深化させたり、それらを自ら表現したりできる学習活動を工夫する。	B		
英語	英語への興味・関心を高める。	A L T と協力し、英語や異文化に触れる機会を多く設ける。	A	B	・自発的な家庭学習の習慣づけのための働きかけや工夫が必要である。
		英語のスピーチ動画 (TED) や DVD など I C T を活用し、日常で使える英語を指導する。	B		
	上級学校進学に必要な英語力を身につける。	クラスルームイングリッシュを多く使用する。	A		
		継続的な単語の週末課題や小テストの実施、副教材の効果的な使用によって自発的な学習意欲を高め、家庭学習を習慣づける。	B		
	コミュニケーション能力を育む。	ペアワークやグループワークを活用して、自分の表現したいことを相手に伝える練習をする。	A		
		自国の文化や興味のある事柄について、他者に伝えるための十分な知識を深める。	B		
家庭	日常生活に必要な知識と技術の習得を図る。	日常生活に活かせるような内容を設定し、実践的学習の充実を図る。	A	A	・知識、技能の習得に向け、自発的に取り組めるよう、実習内容、教材選定を工夫する。
		生徒の実態に応じた授業や実験実習に努める。	A		
	体験学習の充実を図る。	幼稚園等での保育実習や料理講習会・外部講師によるマナー講座など体験学習の充実を図る。	B		
	資格取得の促進を図る。	学科の特性を活かした資格取得のための指導を通して、関心・意欲を高める。	A		
福祉	基礎的・基本的な知識と技術を習得させる。	福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得できるよう生徒一人ひとり個に応じた授業を行う。	A	A	・実習施設とのさらなる連携を図る。 ・障害の理解を深めるために、特別支援学校や障害者施
	アクティブ・ラーニング型授業を取り入れ生徒が主体的に学習できる学	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニング型授業を取り入れ、生徒の「わかる授業」の実践を目指す。	A		

別紙様式2（高）

	習活動の工夫を図る。		施設での実習，ダイアログインザダークでの体験学習，国際福祉機器展覧学会など，実践的な学習の充実を図る。	A		設との連携を図る。
	ICT教育の充実を図る。		ICT機器や動画等を活用した授業を展開することや，実習報告会の際にパワーポイント作製を通して，生徒に思考力・判断力・表現力を身につけさせる。	A		
	学習環境の整備を図る。		季節の壁画など掲示物の創作活動，福祉棟の美化緑化活動を充実させ，生徒の感性を高める。	A		
農業	農場の機能を有効活用する。		職員，施設・設備の専門性を活かし，魅力ある農業教育を推進する。	A	A	・今後も特産品の授業導入を行う。 ・農業クラブ県大会で入賞者をより多く出す。 ・地域農家と連携したインターンシップをもう少し増やしていきたい。 ・ドローン講習など最新技術学習を今後も続けたい。 ・圃場などの環境改善を進めていく。
			栽培・飼育・加工など実践的な学習の場を提供する。	A		
	農林業への関心・意欲の向上を図る。		資格取得，先進地の見学などを通し，農林業に関する知識を深めるとともに，関心・意欲の向上を図る。	A		
			地域の農林業について理解をし，地域に貢献できる場を作る。	A		
	農業クラブ活動を充実させる。		プロジェクト学習の充実をはかり，生徒が計画的に行動する習慣を身につけさせる。	A		
			校内での研究発表や競技会を充実させることで，県大会や全国大会に向けた意欲向上を図る。	A		
	基礎的，基本的な知識と技術を習得させる。		体験学習を通して興味関心を深める学習を図る。	A		
			農林業を通じた実践的学習と自己意欲の向上を図る。	A		
			情報化社会に対応した教育に取り組む。	A		
	教科及び進路への対応を図る。		課題研究による問題解決能力や創造性の展開の充実を図る。	A		
			教科科目における実技学習の充実を図る。	A		
			学科の特性を生かした資格取得の充実を図る。	A		
			環境教育の充実を図る。	A		
			社会奉仕の精神の涵養を図る。	A		
	演習林及び圃場の管理と整備促進する。		インターンシップの実践と学習意欲の向上を図る。	A		
			圃場・演習林の整備を図る。	A		
			圃場の活用と農業機械学習の促進及び，演習林の活用と林業機械学習の促進を図る。	A		
			「農業と環境」の芦野倉農場及び演習林の活用を図る。	A		
教務	学力向上の 為の体制づくりに努める。	授業時間確保	始業・終業のチャイムを教室・教場で聞く体制づくりと聞く姿勢づくりを行う。	A	B	・家庭学習の習慣化を図る。 ・普通教室のPCを活用しやすいように整備する。 ・特別教室の黒板のホワイトボード化を図る。 ・職員の情報セキュリティ意識の向上を図る。
		授業のスキルアップ	お互いの授業を公開することで，授業のスキルアップを図る。 学習指導の充実に繋がる観点別学習状況評価実施の推進を図る。	A		
		学習意欲の涵養	内容・教材等の工夫を通して，生徒の学ぶ意欲の増進を図る。	B		
		家庭学習の習慣化	家庭学習時間を休日最低1時間以上50%，平日最低1時間以上50%を目指す。	C		
	広報活動の活発化を図る。		HP，ポスター，学校だより「清流」，クリヤーファイル，学校案内等の充実を図る。	A		
	職員室の整理整頓を図る。		職員室をより使いやすい環境にし，仕事の能率向上を図る。	A		
	情報システム利用の活発化を図る。		ICT利活用を活発化し，教員のスキルアップを図る。	A		
	生徒指導					
	生徒の実態を把握した生徒指導体制の充実を図る。		いじめ，自殺，不登校，中途退学，暴力行為等の問題行動の未然防止と組織的かつ迅速な対応に努める。	B	B	・担任や学年団だけではなく，教科担当との連絡も密にしていくことが大事である。 ・教育相談においては，カウンセラーとの連携を今年度同様に大事にしていきたい。
			情報の共有化と共通理解による行動連携の充実を図る。	B		
	生徒の自己実現を促す指導・援助の充実を図る。		生徒が存在感や所属感を実感できる学級づくりの支援に努める。	B		
			生徒と教師，生徒相互の好ましい人間関係づくりの推進を図る。	A		
			生徒指導上の課題に対応した校内研修や事例研修等の実施に努める。	B		

別紙様式2（高）

	規範意識の高揚と公共マナーの向上を図る。	教師と生徒の日頃の人間的なふれあいの中で「ダメなことはダメ」の指導の徹底と自己抑制力の涵養を図る。	B		・地域と連携することは交通事故の防止にもつながり、今後も協力していきたい。
		服装・頭髪など指導に対する共通理解の確立と指導の徹底を図る。	B		
		基本的生活習慣の定着（特に、遅刻防止）とマナーアップに向けた取り組みの充実を図る。	B		
	教育相談の充実を図る。	生徒の内面に目を向け、一人一人の心身のよりよい発達を促す指導・援助の推進を図る。	A		
		生徒に応じた教育相談体制の構築を図る。	A		
		スクールカウンセラーやカウンセリングアドバイザーの活用を図る。	A		
	家庭や地域社会、関係機関との連携を図る。	学校と家庭、地域社会、関係機関との情報および行動の連携を図る。	A		
		校種間連携の充実を図る。	B		
	交通安全指導に努める。	バイクの実技講習・自転車点検・事故防止の啓蒙活動を図る。	A		
	進路指導	一人ひとりの進路目標実現のため適切な援助をする。	学年の担任団との連携を緊密にして進路指導を進める。		
生徒が気軽に「進路相談」ができるように進路指導室の雰囲気の醸成に努める。			B		
地域の企業・事業所との連携を密にする。		企業・事業所を継続的に訪問することで密な関係を構築・維持する。	B		
		インターンシップ等の体験を通じた学びを充実させて、職業観・勤労観を育成する。	C		
生徒・保護者及びクラス担任に適切な進路情報を提供する。		各学年団にふさわしい各種説明会および研修会の資料提供を行う。	A		
		定期的に「進路だより」を発行し、進路情報の提供に努める。	B		
特別活動	特別活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。	各活動及び学校行事を見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るとともに、「他人を思いやる心」を育む。	A	A	・行事を精選し、個々の生徒が自主的に活動出来る場面を提供すると共に、集団活動での協調性の大切さを認識させ、協力する態度を育む。
		減少した生徒数に見合った組織へと改変させるため、組織や行事等の精選や充実を図る。	B		
	集団活動を通し、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的態度を育てる。	自他の個性を理解して尊重し、互いのよさや可能性を発揮し、よりよい人間関係を形成する。	A		
		地域や社会の課題を見いだし、主体的に集団や社会に参画し人間関係をよりよく形成するとともに、人としてのあり方を探求し自己実現を図ろうとする態度を養う。	A		
		図 書	有用な図書購入により、学習室としての機能を高め、図書館の利用及び読書の推進・強化を図る。		
希望図書の職員・生徒対象アンケートを年2回実施し、授業や進路実現に役立つ図書を購入する。	A				
蔵書の整理・再登録と廃棄を行い、図書館を利用しやすくする。	新着図書を順次登録し、すぐに貸し出せるようにする。パソコン登録の済んでない図書については、登録を進める。		A		
	図書委員会活動の充実を図る。		図書委員を広報・ディスプレイなどの係に分けて活動を活性化させる。	B	
図書委員の活動を委員の生徒の意見を取り入れて、生徒が利用しやすい図書館づくりを行う。			B		
視聴覚指導の充実を図る。	視聴覚機材の保守点検を進め、活用を促進する。		C		
保健厚生	健康保持増進のための実践力を育てる学校保健の工夫を図る。	健康教育講話等の実施と事後指導を充実させる。	A	B	・教員間の連絡調整をより深め、部員全員で取り組めるような環境を整備する。 ・防災訓練で消防署と協力し、より実践に近い訓練を行う。
		保健関係資料等を活用し、生徒の健康教育の充実を図る。	A		
	自他の生命を尊重させ安全意識能力を育てるための学校安全の充実	防災訓練を実施し、災害時に対応出来る力をつけることに努める。	A		
		教職員対象の防犯訓練の実施。	C		
		職員・生徒向けの救命救急講習会の実施。	A		
	よりよい環境づくりのための整備と工夫に努める。	校内の環境美化・安全の啓発運動に努める。	B		
		委員会活動において校内の環境美化に努める。	B		
渉外	学校と家庭の連携を図る。	P T A総会・評議会・専門委員会、学年P T A等運営の活性化に努める。	B	B	・P T A活動の意義や有効性について啓発し、多くの保護
		会報「清流」の発行や保護者通知等、広報活動の充実を図る。	A		

別紙様式 2 (高)

	関係機関や地域との連携を図る。	登校指導・巡回指導等，学校と家庭と地域社会が一体なって，生徒のマナーアップや規範意識等社会性の向上に努める。	A		者が P T A 活動に参加するよう促す。 ・本校教育活動をバックアップのため，同窓会や後援会と連携する。 ・本校の教育活動に対し，理解と支援を得られるよう学校行事などを通して，関係機関や地域との連携を密にする。
		関係機関や地域の声を聞き，生徒の健全育成に生かす。	B		
	P T A 会員の教育活動への積極的な参加を推進する。	学校行事や視察研修等，会員の積極的な参加を促し，会員相互の親睦を図るとともに，教育活動の一層の推進を図る。	B		
第 1 学年	良い生活習慣の確立をする。	公共の場において身だしなみを整え，挨拶を励行し，決まりと時間を守る生活の確立を指導する。	A	A	・進路実現に向けた指導（ガイダンス，課外授業，小論文・面接指導等）の充実を図る。 ・生活習慣（時間遵守，あいさつ，携帯のルール等）の確立を図る。 ・修学旅行，体育祭，L H R 等をとおして人間的成長のバックアップを行う。
	基礎学力の定着を図る。	学ぶことの重要性を意識させ，自ら学ぶ姿勢を育てる。	A		
		毎日の授業を大切に，集中して取り組むことを習慣化させる。	A		
		課題等を出すことにより，毎日 1 時間以上の家庭学習を習慣化させる。	B		
	良い人間関係作りを図る。	部活動への入部や特別活動への積極的な参加を奨励する。	A		
	思いやりの心を育てる。	H R や学年集会で他者を理解し行動することの重要性を説く。また，ボランティア活動への参加を促す。	A		
第 2 学年	進路指導の充実を図る。	H R や「産業社会と人間」で自己理解を深め，適切な系列選択を実現する。また，資格取得に努める。	A	B	・教科を通したキャリア教育を行う。 ・各校務分掌，委員会との情報共有を徹底する。 ・放課後学習，家庭学習を強化する。 ・目標に向けて自ら計画を立て実行する力を育成する。
		日々の授業を大切にする習慣をつけさせる。	A		
		進路別見学会や進路ガイダンスを実施し，目標や適性を明確化させる。また，小論文や面接の対策を継続しておこなう。	B		
	時間を大切にする。	進路に対応する課外や成績不振者に対する補習を継続的に実施する。	B		
		登校指導や授業前の着席指導をし，時間を守ることを習慣化させる。また，携帯使用のルールを徹底する。	A		
		日々の僅かな時間でも学習することの大切さを，日々の S H R や学年集会，L H R 等で指導する。	B		
	人間関係力をつける。	自己を理解し表現力を高め，豊かな人間関係を築く力を付けさせる。	B		
		L H R や修学旅行・遠足・道徳プラス等での指導を通し，相手を尊重し，理解し合い，共に行動する力をつけさせる。	B		
	進路実現を図る。	朝，放課後，長期休業中の課外を充実し，学力の向上を目指す。	A		
第 3 学年		進路ガイダンスを積極的に実施し，特に面接力を充実する。	A	A	・社会人又は上級学校での生活に対応する人間性を育てる。
		就職，看護医療，大学進学模試へ積極的に取り組み，自己と進路先の理解を深める。	A		
			A		
	社会人への進化を図る。	公の場での服装，言葉遣いを確立させる。	B		
		正しい判断で自立した行動ができるようにする。	B		
	高校生活集大成を図る。	最終学年として，学校行事，クラス行事に積極的に取り組ませる。	A		

※ 評価規準： A： たいへん良くてきた B： 良くてきた C： 普通 D： やや不十分 E： 不十分